

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0495300055
法人名	株式会社ウインズ
事業所名	しあわせの郷遠見塚3丁目グループホーム
所在地 (電話番号)	仙台市若林区遠見塚3丁目14-12 (電話) 022-286-0734
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 12 月 18 日

【情報提供票より】(平成20年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日 (同日から法人名が変更)		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	10 人、非常勤 0 人、常勤換算 10 人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	19,872~25,670 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社の往診クリニック・阿部歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、仙台市の中心部から東南方向へ車で30分程の幹線沿いにあり、周辺は事業所やスーパー、商店が立ち並ぶ一方、畑地も散在しているなど、市街地の中にあっても静謐を感じさせる環境の中にある。ホームは今年4月に経営委譲により法人が変更されたことから、現在、独自理念の作成を急いでいる。ホーム名でもうたわれている入居者の「しあわせ」のため、スタッフ一同、入居者の笑顔を引き出すケアに努めている。地域密着の取組みで特徴的なのは、ホームの隣にある自動車販売店との交流により、販売店からホームの送迎車トラブルの際のアドバイスや入居者の散歩道の清掃など様々な支援を受けている。入居者が散歩の帰りは店に立ち寄り、店員と談笑することも入居者の楽しみの一つになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、①運営推進会議、②家族等の意見の2つに関するものであった。①は会議の中断が今年4月以降、定期開催となり改善済み。②の家族会の再開については、今年9月、食材料費の価格改定のため家族への説明会が持たれたが、家族会の再開までには至っていないので、今後ともさらなる取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はケアに関する部分は、職員が分担して作成し、それ以外の部分は管理者とユニットリーダーとで作成した。その原案を全員参加のミーティングで検討し、まとめた。ケアの作成は毎年担当分野を変えマンネリ化を防ぐ努力をしているほか、12月に開催した運営推進会議にも報告し、情報の共有化を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年4月以降は2ヶ月に1回定期的で開催している。また、開催日は月の第二木曜日と決めている。12月11日に開催した運営推進会議では、行政の監査や自己評価、外部評価の結果や予定を報告しメンバーの理解と協力を求めている。ホームでは会議の活性化を図るため、構成メンバーに新たに民生委員等の増員を予定しているので、その取り組みを期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>大半の家族は最低月1回は来訪しているため、その際に入居者の近況報告をしている。また、全家族に対して毎月家族レター等で入居者のスナップ写真を同封し健康状態や金銭管理等を知らせている。家族の意見収集のため玄関に意見箱を設置しているが、投書がないので家族レターで苦情・意見の申出を呼びかけている。今後、家族との交流を活性化するため、中断していた家族会の再開なども検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の小学校運動会や盆踊りへの入居者の参加、ホーム主催の夏祭りへの地域住民の参加や小学校へバザー売上金の寄付、中学生の社会見学の受け入れなど地域との交流を深めている。また、付近には事業所も多いことから、自動車販売店との交流の様子(入居者が散歩の帰りに立ち寄り談笑しているなど)や店の社会貢献(貧困の救済や環境保護)に対する取組みなどを紹介する内容をホームの新聞に掲載し、これを地域住民に配布し好評を得ている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念である「地域に根ざした笑顔の郷」の『笑顔』はホーム名の「しあわせの」の基本であるとしている。しかし、今年4月から経営委譲により法人が変わったことから入居者の笑顔を基本としつつも、運営者の視点や地域との関係を重視した独自の理念作りを急いでいる。	○	ホームでは経営法人が変わったことから、従来の理念の思想は尊重しつつも、新しい理念作りを急いでいる。今後の取り組みを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在、新しい理念を職員全員で検討中であるが、職員からの聴取結果では、どんな理念になろうとも日々の取組みで大切なのは入居者の笑顔と自由意思・自己決定を尊重したケアであるとして、職員はこれをミーティング等で確認し合って、日々の実践の中で活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	例年、近隣小学校の運動会や盆踊りへの参加、ホームの夏祭りへの住民の参加など地域交流している。最近では隣接している自動車販売店から送迎車トラブルへのアドバイスや散歩道の清掃奉仕など様々な支援を受けている。また、入居者の散歩の帰りには店に立ち寄り店員の方と談笑するなど事業所との交流も深まっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者、職員の全員参加により検討し、まとめている。その結果や課題等の情報を全員で共有している。また、自己評価、外部評価の結果については家族への周知や運営推進会議での報告などにより関係者への普及啓発を図っているほか、評価を活かしたサービスの質の確保・向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年4月以降は2ヶ月に1回(第二木曜日)開催している。12月11日の会議では行政監査や自己評価、外部評価の結果や予定を報告し、評価を活かしたサービスの取組についてメンバーから理解と協力を得ている。また、会議の活性化のため、メンバーの増員(民生委員等)を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営上、法律上の手続きや解釈面での理解のため、頻繁に区役所に出向き相談している。昨年からは区の在宅ケア連絡会の委員に指名され、認知症高齢者を介護している家族への講演会に講師として参加し、行政との連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪した家族にはその都度入居者の近況報告をしている。また、毎月1回全家族に対して「家族レター」で健康面や金銭管理状況を知らせている(本人のスナップ写真同封)。職員の異動については、隔月発行の「しあわせの郷」新聞に職員紹介(顔写真付き)の記事を掲載し、家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見収集のため、玄関への意見箱の設置のほか、内部や外部の苦情・相談窓口の掲示等により周知しているが、意見は出されていない。また、外部評価に関連する「家族アンケート」への記載も要請するなど家族への働きを強めている。家族会は現在中断されているが、その開催を検討しており期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員との馴染みの関係を重視しているため担当制を敷いている。また、管理者は、職員の人事上の配慮も心がけ異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。しかし、家庭の事情等でやむなく離職する例もあるので、入居者のダメージを防ぐため、交代前後の説明や引継ぎを円滑に行うよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者・管理者はサービスの質は職員の質の確保・向上であることを十分認識しており、職員の業務経験や能力に応じて段階的・計画的に研修を受講させている。また、新任職員は部内での研修の後、現場実習では先輩職員のでいねいな指導で技術や知識を身につけさせている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加入しており、管理者・職員が会の研修会等を通じて交流を持っている。内部研修会では、実践報告会が設けられこの中で、ケアのあり方、仕事の悩み、ネットワークづくりを学んでおり、サービスの質の向上や仕事の悩みの解消に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の殆どは、入居前、ホームの2階にある同法人が運営しているデイサービスセンターの利用者であり、ホームと同センターの間では交流が頻繁に行われていることから入居の際には既に馴染みの関係が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居前の情報や日々の関わりから入居者の得意分野を把握している。例えば、書道を趣味としている入居者に対して、ホーム主催の夏祭りの際、自作の書を出品してもらうなど、それぞれの得意や特技を発揮する場面を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思いや意向は、入浴や食事等の介助、レクリエーションでの会話、ケース記録、家族からの情報など通じて把握している。職員の聴取では、食事介助を必要とする場合でも使い慣れた箸を持たせると自分で食べるようになると説明しており、本人の力を発揮できるケアに努めていることが観察を通じてもうかがわれた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを踏まえて関係者の参加のもと、カンファレンスを開催し、本人の視点に立った介護計画を作成している。特に残された力の活用を図り自分らしく暮らせることを重視し、それをプランに反映させている。作成したプランは家族に説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回は本人の状態、家族の意向を確認しプランの見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事情により家族が来訪できない入居者には、面会できるよう外出時に付き添い支援している。また、かかりつけ医への通院のため家族が付き添いが困難な場合は職員が行っているなど、入居者のニーズに合わせて必要な支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のほとんどは協力病院を利用している。協力病院は往診専門で月2回来訪し診察を受けている。協力病院は休日・夜間の緊急時にも対応してくれ、良好な関係が築かれている。また、かかりつけ医との関係も良好で、職員の付き添いなどにより家族と情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、要介護4が1人(入院中)、同5が1人いる。5の入居者は健康状態が安定しており、重度化や終末期への対応について具体的な検討はしていない。しかし、ホームでは入居者の重度化によりその対応の必要性を認識しており、この4月から法人が変わり、今後の対応方針を取り決めていきたいとしている。	○	法人が変わったことを契機に重度化や終末期に向けた方針の策定について強い意欲を持っているので、今後の取り組みを期待したい。その方針を基に家族とも話し合い意志確認をお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声かけや対応は、入居者の健康状態や障がいの種類・程度に合わせて誇りやプライバシーを損ねることのないよう細心の注意を払ってケアに当たっている。また、個人情報の書類は、紛失や散逸しないようステーション内の施錠できる保管庫で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のホームでの生活は、徹底して本人のペースに合わせた支援に努めている。職員からの聴取では、職員は入居者の動作が速いとか遅いとか或いは朝寝坊や夜更かしはしないなどのいわゆる生活規範重視の感覚は持っておらず、徹底してその人の個性を支援するようなケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は家族的な和気あいあいの雰囲気の中で、入居者と職員と一緒に食事し、後片付けをしている光景がみられた。運営者が変わってから週1回「お楽しみ献立」が設けられている。運営者(板前の経歴あり)の配慮により食事が入居者の楽しみであるよう『会席料理』が提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一人ひとりがゆっくりと楽しんでもらうため、入浴の予定日を決めているが、予定外でも何時でも自由に入浴できるように配慮している。浴室は車椅子の入居者でもゆったりと入れるスペースであるが、時々併設の通所施設の大きな浴室で入浴を楽しむときもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運営者の発意で、食器を盆に載せて食事を取っている。配膳・下膳の作業がし易いので、食事の準備や後片付けを手伝う入居者が多い。また、自宅では家事を一切していなかった入居者がホームに来てからは、率先して食器洗いをしている例もある。一人ひとりの役割を引き出す工夫が観察を通じてうかがわれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの北側には農業水路に沿って散歩道があり、天気の良い日は職員の付き添いで外出を楽しんでいる。また、交流している自動車販売店に立ち寄って従業員と会話を楽しんだり、月1回は市内の名所旧跡にドライブに出かけたりしている。元旦に近隣の神社にお参りに行くことを楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は鍵をかけていない。ただし、玄関を出ると駐車場となっているので、安全のためセンサーを取り付けている。ホームでは見守りや地域との協力を得るなどによりセンサーの撤去を検討している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下、消防訓練・避難訓練を年2回実施している。特に夜勤は職員が1人なので、そのうち1回(12月8日)は夜間想定訓練を重視して実施した。起床から避難口までの所要時間や誘導方法を確認・点検した。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェックし、記録している。体重の測定も月1回行っている。障がいのため食事介助を要する入居者が、ホームでは本人に使い慣れた箸を持たせ自力で食事ができるようその状態や能力に応じた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると廊下に続き広い居間兼食堂があり、隅には休息できる畳敷の小上がりスペースがある。また、キッチンがオープン形式で入居者と職員と一緒に食事の準備や後片付けができる配慮もなされている。ベランダからはホームの花壇や近隣の畑地が眺められ、居心地のよい景色や空間がcaもし出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の中には家具類の他、CD、書籍など馴染みの物が持ち込まれ、配偶者の遺影にはお茶や水が供えられている。壁には趣味の手書きの書なども飾られ、その人らしく過ごせる部屋が維持されている。ホームではベットの柵を入居者の移動動作が楽になるよう手直して取り付けているなど、きめ細かな支援に努めている。		